

長期投資マガジン365

執筆・監修：まさとFP

2025年10月27日号 (Vol. 13)

こんにちは、まさとFPです。

10月後半（10/14～10/26）の市場は、先週までの「不透明感」から一転し、日米ともに力強く上昇しました。

この上昇の背景には、先週号で懸念していた「米政府機関閉鎖のリスク」が解消されたこと、そして「米国の企業決算シーズン」が本格化したことがあります。市場が「政治不安（ノイズ）」から「企業業績（ファンダメンタルズ）」へと視点を移したこの2週間を振り返ります。

今回の資産形成のヒントは、この流れに最適なテーマとして「株価が長期的に上がる『本当の理由』」について掘り下げます。

【マーケット解説】政治不安の後退と「企業決算」への回帰

S&P500：政府機関の再開と好調な企業決算が市場を牽引

この2週間で、S&P500は6,644ポイント（10/14）から6,791ポイント（10/24終値）へと、約2.2%の力強い上昇を見せました。

✓ **要因1：政治リスクの解消（安堵ラリー）**

最大の懸念材料だった米国政府機関の一部閉鎖が、10月18日頃に暫定予算の成立をもって解消されました。これにより、投資家心理が「リスクオフ」から「リスクオン」へと一気に好転しました。

✓ **要因2：好調な第3四半期決算の本格化**

JPモルガン・チェースなどの大手金融機関を皮切りに、主要企業の決算発表が本格化しました。これらが市場予想を上回る好調な内容であったため、「景気後退懸念」が和らぎ、企業の業績（ファンダメンタルズ）を見直す買いが入りました。

日経平均株価：米国市場に連動し、4万9000円台を回復

日経平均も米国市場の好転に素直に連動しました。10月14日には「政局不安や米中摩擦」を嫌気して46,847円まで下落する場面もありましたが、その後は持ち直し、10月24日には49,299円まで上昇しました。

【まさとFPのプロフェッショナル解説】「政策期待」と「外部環境」の綱引き

✓ **国内要因（下支え）：**

先週号で触れた「高市政権（サナエノミクス）」への積極財政・金融緩和の期待が、引き続き相場の下支え要因となりました。

✓ **外部要因（追い風）：**

しかし、それ以上に影響が大きかったのは米国の政治リスク解消でした。日本株は海外投資家の売買比率が高いため、米国の市場が安定すると、日本株も安心して買われる傾向が強いです。

✓ **結論：**

10月後半の上昇は、国内の「政策期待」という土台の上で、米国の「リスク解消」という追い風が吹いた結果だと分析できます。

まさとFPからのアドバイス

この2週間は、市場の関心が「政治（ノイズ）」から「企業業績（本質）」へと移る典型的なパターンでした。政府閉鎖で騒いでいたのが嘘のように、市場は次のテーマ（企業決算）に移っています。

これこそが、私たち長期投資家が短期的なニュースに振り回されるべきではない理由です。私たちが本当に注目すべきは、次の「資産形成のヒント」で解説する「企業の利益成長」です。

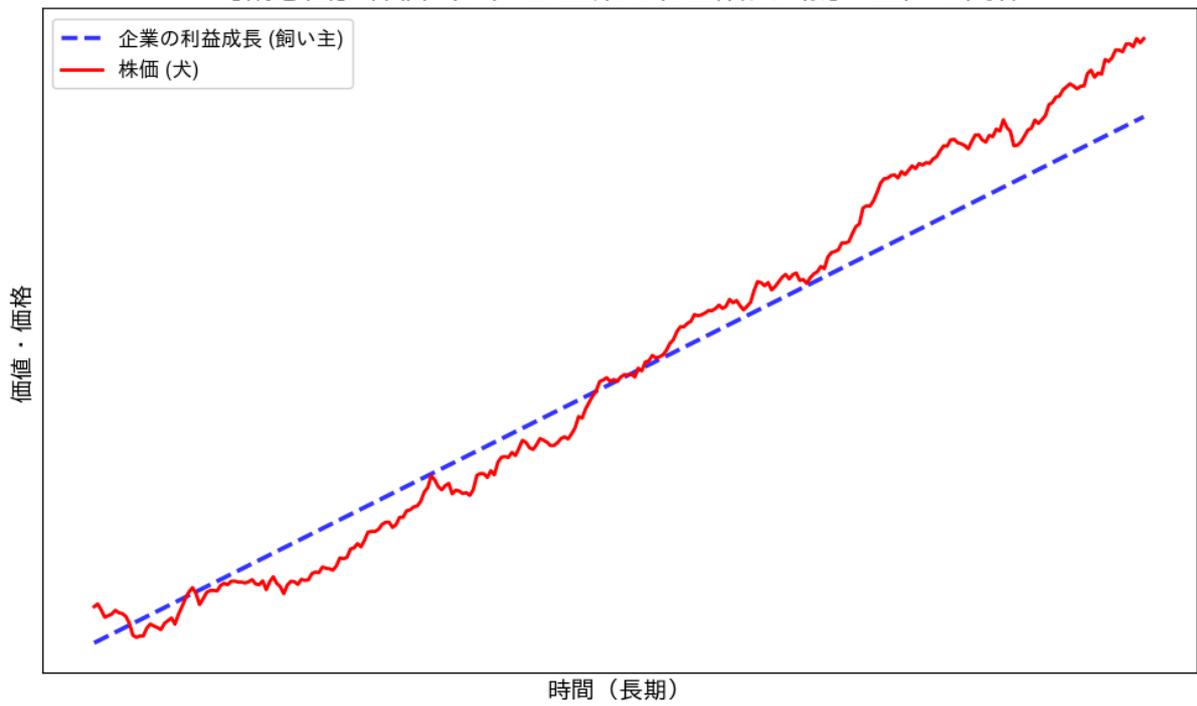
【資産形成のヒント】株価が長期的に上がる「本当の理由」

今、市場の関心は「企業決算（＝企業の利益）」に集まっています。なぜなら、それが株価を長期的に動かす唯一最大の「エンジン」だからです。

「株価」と「企業の利益」のシンプルな関係

短期的な株価は、政治不安やニュースなどによる「人気投票」で上下します。しかし、長期的な株価は、その企業の「利益成長」に必ず連動します。「犬の散歩」の例えが有名です。

【概念図】 株価（犬）と企業の利益成長（飼い主）の関係



図：「犬の散歩」概念図。株価（犬）は短期的には上下するが、長期的には企業の利益成長（飼い主）についていく。

飼い主 (=企業の利益)

- ✓ ゆっくりとだが、着実に前に進む。
- ✓ 長期的な方向性（成長）を決める。

犬 (=株価)

- ✗ 飼い主の周りを元気に走り回る（時には後ろに戻ったり、大きく先に走ったりする）。
- ✗ 短期的にはどこへ行くか分からない。

【結論】

犬（株価）は短期的には上下しますが、必ず飼い主（利益）の元に戻り、飼い主が進む方向（長期的な成長）についていきます。

私たちがS&P500に投資する理由は、S&P500という「株価チャート」を信じているからではありません。米国を代表する「**500社の企業（飼い主たち）が、今後も利益を伸ばし続ける**」という「企業の成長」に投資しているのです。

短期的な「犬（株価）」の動きに惑わされず、「飼い主（企業の利益）」がしっかり前に進んでいるかどうか注目しましょう。

読者のギモン解消！ Q&Aコーナー

最後に、読者の皆さまから寄せられる疑問に、まさとFPがお答えします。

Q. 米国政府の閉鎖が解除されましたが、またすぐに閉鎖するのでは？ 政治リスクが怖いです。

A. ご指摘の通り、今回成立したのは「暫定予算」であり、根本的な解決には至っていません。政治リスクは今後も必ず発生します。

しかし、これこそが「ドルコスト平均法（積立投資）」が最強である理由です。政治リスクを予測して売買（タイミング投資）するのはプロでも不可能です。

私たちは、政府が閉鎖していても再開していても、淡々と積立を続けることで、そうした政治リスクを「時間的に分散」し、無力化することができます。

Q. 「企業決算」が大事なのは分かりましたが、500社すべての決算をチェックするのは不可能です。どうすれば良いですか？

A. 素晴らしいご質問です。これこそが「インデックス投資」の最大のメリットです。

S&P500やオルカン（全世界株式）に投資するということは、「市場全体（プロの投資家たち）の平均点を取る」ということです。好調な企業（例：決算◎）もあれば、不調な企業（例：決算×）も必ず出てきます。

私たち個人投資家は、その一つ一つを調べる必要はありません。インデックスファンドが自動的に「新陳代謝（不調な企業が外れ、好調な企業が入る）」を行ってくれるからです。私たちは「全体として利益が成長する」ことを信じて、ファンドを保有し続けるだけで良いのです。

「政府閉鎖」という霧が晴れ、「企業業績」という本質に市場の目が戻った2週間でした。

短期的な政治のニュース（ノイズ）ではなく、長期的な企業の利益成長（本質）に目を向ける、という長期投資の王道を再確認できました。次回の「長期投資マガジン365」（11月上旬号）もご期待ください。

まさとFP